



令和2年度

小浜市立加斗小学校  
学校評価書



令和2年度小浜市立加斗小学校学校評価総合シート

項目	重点目標	具体的取組 (数値目標)	[指標] 回答者	判断基準 (アンケート項目)	成果 (○)・課題 (△)・改善策 (◇) / 学校関係者評価 (◎)
思いやりのある学級づくり	◎思いやりと協力の心を持つ子の育成	・失敗体験、成功体験、感動体験を道徳等と関連させ、人間としての生き方に迫らせる (A+B>80%)	[取組] 教職員	Q:「気づき・考え・実行する」を意識して「健康・奉仕・交流活動」に取り組ませることができましたか。 A:そう思う 33% Bやや思う 67% Cあまり思わない 0% D思わない 0% (100%)	○取組、成果、満足度共に90%を超える結果であった。△友達への思いやりの気持ちを持って生活しているとあまり思わない児童が2%いる。◇たてわり異学年交流の機会を工夫し、子供同士の絆をより認識できる機会を増やす。◇「どうぞ」「ありがとう」の言葉の交流を習慣化させる。◎無言清掃の内容をこれまで以上に充実させ、質の高い活動にしている。
			[成果] 児童	Q:友達への思いやりと協力の気持ちを持って生活していますか。 A:そう思う 83% Bやや思う 15% Cあまり思わない 0% D思わない 2% (98%)	
			[満足度] 保護者	Q:お子さんは、思いやりや協力の心が育ってきていると思えますか。 A:そう思う 62% Bやや思う 36% Cあまり思わない 0% D思わない 0% (98%)	
○のびのびと活動できる土壌づくり	・あいさつと気持ちのよい返事の励行 (A+B>80%)	[取組] 教職員	Q:児童が気持ちのよいあいさつができるように指導できましたか。 A:そう思う 50% Bやや思う 40% Cあまり思わない 10% D思わない 0% (90%)	○取組、成果、満足度共に90%を超える結果であった。運営委員会と6年生を中心とした毎朝のあいさつ運動やお昼の放送での表彰等により、自主的に元氣なあいさつをする児童が増えた。保護者の満足度も昨年90%から98%に向上した。△十分なあいさつができていないと思っている児童が6%おり、継続的な指導が必要である。◇高学年や委員会等の子ども中心の活動を今後も継続、充実させていく。◇二中と同様に、学校の中でも大人に「こんにちは」と言わせる。◎目頃から子どもたちは、地域住民に気持ちのよい挨拶をしてきている。	
		[成果] 児童	Q:友達や地域の人に笑顔であいさつができていますか。 A:そう思う 70% Bやや思う 23% Cあまり思わない 3% D思わない 3% (93%)		
		[満足度] 保護者	Q:お子さんは、家族や地域の人に笑顔であいさつをしていますか。 A:そう思う 49% Bやや思う 49% Cあまり思わない 2% D思わない 0% (98%)		
○自他の人権を尊重する心の育成	・全校一斉人権教育デーの設置 (A+B>80%)	[取組] 教職員	Q:集会活動などで、児童が互いの人権を尊重するように指導できましたか。 A:そう思う 33% Bやや思う 56% Cあまり思わない 11% D思わない 0% (89%)	○成果、満足度は90%を超える結果であった。人権講話や人権週間の各学年での取組、拉致問題学習会の実施が好結果につながったと考えられる。△取組では、コロナ禍で集会活動や縦割り活動がかなり制限されたことが、数値(昨年100%→88%)に表れた。◇たてわり異学年交流の機会を工夫し、認め合い称えあう場面を意識的に多く設定し、友だちを大切にしようとする心情を育む。	
		[成果] 児童	Q:周りの人を大切にしようとしていますか。 A:そう思う 78% Bやや思う 20% Cあまり思わない 2% D思わない 0% (98%)		
		[満足度] 保護者	Q:お子さんは、周りの人を大切にしようとしていますか。 A:そう思う 49% Bやや思う 51% Cあまり思わない 0% D思わない 0% (100%)		

項目	重点目標	具体的取組 (数値目標)	[指標] 回答者	判断基準 (アンケート項目)	成果 (○)・課題 (△)・改善策 (◇) / 学校関係者評価 (◎)
確かな学力づくり	◎考えを持ち、表現できる力の育成	・発表の時間と場の確保 (A+B>80%)	[取組] 教職員	Q:「聞く力」を向上させることを意識して授業を行うことができましたか。 A:そう思う 44% Bやや思う 56% Cあまり思わない 0% D思わない 0% (100%)	○授業中に、自分の考えを発表することについては、一定の成果が見られる。これは、まず、「聞く力」を向上させようという取り組みを意識した授業を続けてきた成果であると考えられる。聞くことができ、自分の考えと比較し、発表につながったものと言える。△しかしながらまだ十分ではないと自覚している児童の一定数いる。◇今後は、より積極的に発表できる場所まで、聞くから話すへとつなげていくことを進めていきたい。◎授業参観では、児童は落ち着いて授業に取組み、自分たちで調べたり、考えたりしたことを発表できていてよかった。
			[成果] 児童	Q:授業中に、自分の考えを発表することができましたか。 A:そう思う 62% Bやや思う 32% Cあまり思わない 3% D思わない 3% (94%)	
			[満足度] 保護者	Q:お子さんは、自分の考えを伝えることができましたか。 A:そう思う 31% Bやや思う 56% Cあまり思わない 13% D思わない 0% (87%)	
○学習意欲の向上と基礎・基本の定着	・基礎テスト(国算)の合格率の向上 (A+B>80%)	[取組] 教職員	Q:児童が基礎テストで合格点を取れるように手立てを取れましたか。 A:そう思う 50% Bやや思う 50% Cあまり思わない 0% D思わない 0% (100%)	○基礎的な学力を確かめるテストについては、手立てを行い成果が上がっている。△しかしながら、ドリルや家庭学習の徹底がはからず、難しい状態にある児童がいる。◇今後、授業中の習熟はもとより、前学年までの復習を含めた基礎・基本の徹底を、加斗っ子タイム、チャレンジタイムで、計画的に取り組んでいく。	
		[成果] 児童	Q:国語や算数の基礎テストで、毎回合格点を取ることができましたか。 A:そう思う 42% Bやや思う 38% Cあまり思わない 13% D思わない 5% (80%)		
		[満足度] 保護者	Q:お子さんの国語や算数の基礎的な力については、と思っていますか。 A:そう思う 29% Bやや思う 58% Cあまり思わない 13% D思わない 0% (87%)		
○わかる・楽しい授業の工夫と改善	・1人1回以上の研究授業の実施 (A+B>80%)	[取組] 教職員	Q:研究授業を1回以上実施することができましたか。 A:そう思う 38% Bやや思う 38% Cあまり思わない 12% D思わない 12% (76%)	○研究授業は、全員1回以上進んで取り組めた。授業はよくわかるという成果が多い。△しかし、実際は発表内容や記述したもの、テストの点数などに結びついていない児童が一定数いる。また、研究授業は、コロナの影響で、後期の後半に実施することになってしまった。◇次年度は、研究主題に沿って、計画的にわかる楽しい研究授業を実施し、ふり返りを活用して授業力アップを図る。	
		[成果] 児童	Q:授業はよくわかりますか。 A:そう思う 75% Bやや思う 22% Cあまり思わない 0% D思わない 0% (97%)		
		[満足度] 保護者	Q:お子さんは授業内容をわかっていると思えますか。 A:そう思う 31% Bやや思う 56% Cあまり思わない 13% D思わない 0% (87%)		

項目	重点目標	具体的取組 (数値目標)	[指標] 回答者	判断基準 (アンケート項目)	成果 (○)・課題 (△)・改善策 (◇) / 学校関係者評価 (◎)
健康な体づくり	◎ねばり強く挑戦する子の育成	・水泳、マラソン、なわとびへの取組 (A+B>80%)	[取組] 教職員	Q:水泳やマラソン大会などでねばり強く挑戦するよう指導できましたか。 A:そう思う 70% Bやや思う 30% Cあまり思わない 0% D思わない 0% (100%)	○取組、成果、満足度、すべて90%を超える結果。マラソンがんばりカードを活用して、目標数値が具体的に設定されたことがやる気につながったと思われる。△取組、成果に比べて満足度は低い。ねばり強く取り組めていない児童が5%おり、満足度が昨年度より下がっている。◇がんばりカード等を活用して児童の頑張りが目に見えるようにする。また、マラソンに取り組む時間を増やしたり、個人の力に応じて目標を設定させたりすることで意欲を持たせ、児童の頑張りが家庭にも伝わるようにする。
			[成果] 児童	Q:水泳やマラソンなどの行事においてねばり強く取り組むことができましたか。 A:そう思う 83% Bやや思う 12% Cあまり思わない 3% D思わない 2% (95%)	
			[満足度] 保護者	Q:お子さんは、水泳やマラソンなどの行事においてねばり強く取り組んでいましたか。 A:そう思う 58% Bやや思う 33% Cあまり思わない 7% D思わない 2% (91%)	
○運動能力の向上を目指す子の育成	・外遊びの奨励、業間活動の推進 (A+B>80%)	[取組] 教職員	Q:外遊びや業間活動で子ども達に奨励することができましたか。 A:そう思う 70% Bやや思う 30% Cあまり思わない 0% D思わない 0% (100%)	○取組、成果ともに90%を超える結果。登校後や業間、昼休みなどに外に出て走ったり、遊んだりする児童が今年度は多かった。△満足度は、昨年度よりは上がっているが、取組、成果に比べて低い。◇学校では外遊びをするが、家では室内遊びが中心となる児童もいる。成果と満足度の差を埋めるために、家でもできる外遊びを教えたり、体を動かす縦割り遊びの様子やその成果をお便りで伝えたりする。	
		[成果] 児童	Q:外遊びや業間活動に積極的に取り組みましたか。 A:そう思う 78% Bやや思う 17% Cあまり思わない 5% D思わない 0% (95%)		
		[満足度] 保護者	Q:お子さんは、外遊びや業間活動などを通じて、運動好きになってきていると思えますか。 A:そう思う 62% Bやや思う 22% Cあまり思わない 9% D思わない 4% (84%)		
○望ましい食習慣の習得	・正しい箸の持ち方の習慣づくり (A+B>70%)	[取組] 教職員	Q:正しい箸の持ち方を継続して指導することができましたか。 A:そう思う 56% Bやや思う 34% Cあまり思わない 0% D思わない 0% (90%)	○取組、成果ともにほぼ90%に近い結果。△満足度が、取組、成果に比べてかなり低い。◇成果と満足度の差を埋めるために、家でも正しい箸の持ち方ができるように、学校での取り組みの様子をお便りで伝えたり、参観日に箸の持ち方の指導をした。◎箸の持ち方については、家庭との連携も必要であるので、今後も学校の取り組みを知らせていくことが必要。保育園でも、発達段階に応じて正しい箸の持ち方の意識付けをしていきたい。	
		[成果] 児童	Q:正しい箸の持ち方をしようとしていましたか。 A:そう思う 67% Bやや思う 22% Cあまり思わない 10% D思わない 2% (89%)		
		[満足度] 保護者	Q:お子さんは、正しい箸の持ち方をしようとしていますか。 A:そう思う 38% Bやや思う 29% Cあまり思わない 29% D思わない 4% (67%)		

項目	重点目標	具体的取組 (数値目標)	[指標] 回答者	判断基準 (アンケート項目)	成果 (○)・課題 (△)・改善策 (◇) / 学校関係者評価 (◎)
家庭・地域・学校と共に取り組む	◎家庭と共に子どもを育てる	・学校・学級通信の発行 (月1回) (A+B>80%)	[取組] 教職員	Q: 月1回の各種たよりをだすことができましたか。 A そう思う 90% B やや思う 10% C あまり思わない 0% D 思わない 0% (100%)	○学校だよりは、写真を取り入れるなど児童が興味を持ちやすい紙面になっていた。HPをアップして、学校の様子をタイムリーに知らせることができた。△児童の評価は数値目標の90%を超えているが、保護者の評価は、「あまり思わない」が昨年度より増えている。◇今後は、各種たよりそれぞれの教育活動のねらいや、教員の思いなどを書き足すことで、内容の更なる充実を図る。
			[成果] 児童	Q: 学校や地域のことを自分から家の人に話すことができましたか。 A そう思う 68% B やや思う 23% C あまり思わない 5% D 思わない 0% (91%)	
	[満足度] 保護者	Q: 各種たよりやホームページから学校の様子をつかむことができましたか。 A そう思う 40% B やや思う 49% C あまり思わない 11% D 思わない 0% (89%)			
	[取組] 教職員	Q: スウィッチ・オフ・ウィークを学期1回取り組ませることができましたか。 A そう思う 80% B やや思う 20% C あまり思わない 0% D 思わない 0% (100%)			
○地域と共に子どもを育てる	・スウィッチ・オフ・ウィークの実施 (A+B>80%)		[成果] 児童	Q: スウィッチ・オフ・ウィークにきちんと取り組むことができましたか。 A そう思う 65% B やや思う 27% C あまり思わない 5% D 思わない 3% (92%)	○スウィッチ・オフ・ウィークについて、協力的な家庭が多い。児童も意識して取り組んでいる。△各学年の実態や、改善のみられない児童の共通理解がなされおらず、ややマンネリ感を感じる。◇頑張っている児童を賞賛する機会を設定したり、家庭での具体的な取り組みの紹介をしたりなど、やる気を高める工夫をする。◎地域と共に子どもを育てるという視点では、ふるさと学習の6年生の蒼島学習では、地域の取組と連携してシーカヤック体験を実施でき、子ども達よりよい活動につながっていた。
			[満足度] 保護者	Q: お子さんは、スウィッチ・オフ・ウィークにきちんと取り組んでいましたか。 A そう思う 52% B やや思う 33% C あまり思わない 11% D 思わない 4% (85%)	
			[取組] 教職員	Q: スウィッチ・オフ・ウィークを学期1回取り組ませることができましたか。 A そう思う 80% B やや思う 20% C あまり思わない 0% D 思わない 0% (100%)	

## 令和2年度 学校評価について

### 1 方針

- ・スクールプランに掲げた重点目標および具体的取組について評価する。(次頁「学校評価総合シート」参照)
- ・教職員、児童、保護者を対象にそれぞれアンケートを実施する。(アンケート用紙は分けて作成する。)
- ・アンケート結果をもとに、成果・課題・改善策(案)を各担当で考え、「自己評価」としてまとめる。
- ・2月5日実施予定の「家庭・地域・学校協議会」において、「自己評価」を提示し、委員から出された意見を参考に改善策を修正し、出された意見は「学校関係者評価」とする。
- ・「自己評価」「学校関係者評価」を合わせたものを、「学校評価書」として市教委に提出し、「学校評価総合シート」をホームページに掲載する。

### 2 日程

- (教職員対象アンケート) 令和2年12月1日(火)～4日(金)
- (児童対象アンケート) 令和2年12月1日(火)～4日(金)
- (保護者対象アンケート) 令和2年12月1日(火)～4日(金)

### 3 実施後の処理方法

- ・アンケートの集計は校長が行う。～12月13日(日)
- ・目標未達成の項目を中心に、成果・課題・改善策(案)をまとめ、結果を入力する。
- ・入力先 teachers- 令和2年度 - 管理 - 運営 - IB11\_学校評価 - 令和2年度小浜市立加斗小学校学校評価総合シート 令和3年1月4日(月)～1月15日(金)

項目	担当者 (○がチーフ)
思いやりのある学級づくり	○三島、山前、(古田)
確かな学力づくり	○木橋、中森、平井
健康な体づくり	○森、池田、古田
家庭・地域と共に歩む学校づくり	○教頭、出口、校長

### 令和2年度 小浜市立加斗小学校スクールプラン

**<めざす学校の姿>**  
『子どもが自己実現できる学校』  
『学びと成長の場』

子ども一人ひとりが、仲間と明るくふれあいながら、互いの個性を發揮して、主体的に学び、自らの願いや課題を達成した喜びを味わうことのできる学校。

**<教育目標>**  
『自ら学び、共に伸びる加斗っ子』  
**<めざす子どもの姿>**  
◇徳 仲間と助け合う子  
◇知 自分で勉強する子  
◇体 たくましい心と体を持つ子  
**<研究テーマ>**  
『つながり合い、高め合う子どもの育成』

**<めざす教職員の姿>**  
『誠意』『創意』『熱意』の  
ある教職員。  
・学校に係る全ての人に誠意を持って対応  
・諸課題の判断基準を「子ども」におく。  
・教職員の学び合い・協働を大切にす。

思いやりのある仲間づくり

◎思いやりと協力の心を持つ子の育成。  
○のびのびと活動できる土壌づくり。  
○自他の人権を尊重する心の育成。

確かな学力づくり

◎コミュニケーション能力の育成。  
○学習意欲の向上と基礎・基本の定着。  
○わかる・楽しい授業の工夫と改善。

健康な体づくり

◎ねばり強く挑戦する子の育成。  
○運動能力の向上を目指す子の育成。  
○望ましい食習慣の習得。

家庭・地域と共に歩む学校づくり

◎家庭と共に子どもを育てる。  
○地域と共に子どもを育てる。  
○保・小・中の連携の推進。

①縦割り活動を通した仲間づくり。  
◆遊びを通した仲間づくり、いじめ・不登校の指導の充実、教育相談活動の充実。  
②あいさつ運動の推進。  
◆あいさつと気持ちの良い返事の励行。  
③人権を尊重し合う子の育成。  
◆全校一斉人権教育デーの設定。  
・朝礼での人権講話(各学期)。  
・拉致問題に関する理解促進。

①コミュニケーション能力の向上。  
・伝える力の向上と読書活動の充実。  
◆発表の時間と場の確保。  
②考えるための基礎づくり。  
・学習ルールの定着と読書活動の充実。  
◆基礎テスト(図算)の合格率の向上。  
③考えを引き出す授業展開の工夫。  
・切り返し(質問)のスキルアップ。  
◆1人1回以上の研究授業の実施。

①加斗っ子パワーアップ作戦の展開。  
◆遠足、水泳、マラソン、なわとびへの取組。  
②子どもたちの運動量の充実。  
◆外遊びの奨励、業間活動の定着。  
③食の教育を通した食習慣の定着。  
・給食時間を活用した魚の食べ方指導。  
④給食時間を活用した箸の持ち方指導。  
⑤業務改善(一斉運動日・学校閉庁日の励行、職員会議は月1回60分以内)。  
◆感染予防等を通した自己管理の徹底  
⑥睡眠、食事、運動等、生活習慣の自己管理に重点を置いた指導の徹底。

①ふるさと学習の推進。  
◆ふるさと学習を通した地域への愛着心の向上。  
②学校の情報公開の充実。  
◆学校・学級通信の発行(月1回)。  
・学校ホームページの適宜更新。  
・学校公開日の活用(年4回以上)。  
◆Switch Offウィークの実施。  
・ネット利用や情報モラルに関する指導の充実。  
③保・小・中の連携の充実。  
◆連絡会の実施や参加の充実。

**<◆数値目標>**  
①80% ②80% ③80%

**<◆数値目標>**  
①80% ②80% ③80%

**<◆数値目標>**  
①80% ②80% ③70%

**<◆数値目標>**  
①80% ②80% ③80%